

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006-2009

課題番号：18500767

研究課題名 (和文) 中世における「テトラビブロス」の伝承の研究

研究課題名 (英文) Arabic translations of *Tetrabiblos* in medieval times

研究代表者

山本 啓二 (YAMAMOTO KEIJI)

京都産業大学・文化学部・教授

研究者番号：60329927

研究分野：アラビア科学史

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史

キーワード：プトレマイオス、占星術、アラビア語、ギリシア語、シリア語

1. 研究計画の概要

2 世紀にプトレマイオスによって書かれた占星術書『テトラビブロス』のアラビア語訳の校訂版を作り、それをギリシア語原典およびシリア語訳と比較検討することが目的である。具体的な手順は以下の 4 つに分けられる。

- (1) フナイン版アラビア語テキストの校訂版作成。
- (2) ウマル版アラビア語テキストの校訂版作成。
- (3) フナイン版とギリシア語校訂版との比較。
- (4) フナイン版とシリア語訳テキストとの比較。

2. 研究の進捗状況

2 世紀のプトレマイオスが著した『テトラビブロス』は、9 世紀にアラビア語に 2 回翻訳されたことがわかっている。最初の翻訳の写本は現存しないが、ウマル・イブン・アル＝ファッルハーンUmar al-Farrukhanの注釈が全部で 3 写本残っている (以後ウマル版と呼ぶ)。そのうちの 1 写本のみ、ウマル自身の序文がつけられている。2 度目の翻訳はアル＝バトリーク・アブー・ヤフヤーAl-Batrik Abu Yahyaによるものであり、フナイン・イブン・イスハークHunayn ibn Isahakがそれを改訂している。後者のみが 8 写本残っている (以後フナイン版と呼ぶ)。ウマル版はフナイン版

に比べてかなり簡潔に記されており、全 4 部のうち第 3 部の最後の章は全く扱われていない。章区分について、ギリシア語版 (G) と 2 つのアラビア語版 (U, H) を比較すると、さまざまな相違がみられる。なお、ギリシア語版は、1998 年に出版されたヒューブナー版を用いた。一般に章区分は H よりも U の方が G に近いと言える。また、フナイン版には、サービト・イブン・クッラSabit ibn Qurraが、一部の語彙に説明を加えている記述があり、8 写本のうち 5 写本でそれを確認することができる。これによって、サービトが実際にどの程度フナイン版に手を加えたかを知ることができたことは、貴重な発見であった。

唯一現存するパリ国立図書館のシリア語写本 (no. 346) は、第 2 部の第 10 章以降がほぼ完全なかたちで残っているが、冒頭から第 2 部第 9 章までと、第 3 部第 3、4 章は実質的に欠けている。欠けた部分の一部は、no. 346 とは別に、no. 392 に断片として残っている。

現存する写本の数と質からみて、イスラーム世界では『テトラビブロス』そのものより

も、11世紀のアリー・イブン・リドワーンによる全文注釈や、やはり11世紀のクーシュヤールによる、『テトラビブロス』に大きく依存した『占星術入門』などが主に読まれたと考えられる。

3. 現在までの達成度

(1) おおむね順調に進展している。

(2) おおむね順調に進展している。

(3) 遅れている。

(4) 遅れている。

(1)と(2)については、現在9割ほどが完成している。(3)と(4)が遅れている主な理由は、(1)と(2)の作業に予想以上の時間がかかったことである。

4. 今後の研究の推進方策

(1)と(2)に関しては、不明な単語がいくつかあり、これらを最終的に確定するには、さらに時間がかかると思われる。

(3)については、あと1年で可能なかぎり達成したいと考えるが、やはり(4)については、期間内では困難であるため引き続き研究を続けていきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

1. 山本啓二、中世における「テトラビブロス」の伝承の研究、『京都産業大学総合学術研究所所報』査読無、第5号、2007年、1-7頁

〔学会発表〕(計 2件)

1. 山本啓二、「なぜ占星術を研究するのか」、日本科学史学会京都支部会、2007年7月7日、京都大学。

2. 山本啓二、「占星術研究から見たスキファノイア宮の壁画について」、ルネサンス研究会、2006年7月15日、学習院女子大学。

〔図書〕(計 2件)

1. 小杉泰、名古屋大学出版会『イスラーム世界、研究マニュアル』、2008年、194-199頁。

2. Thomas Hockey, *Biographical Encyclopedia of Astronomers*, Springer, 2007, pp. 11 and 941.